

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL <http://jbwf.jp>

沙羅の樹

Saranoki

No.13

2020年春号

4月15日発行



令和2年2月12日（水）、東京駅八重洲口近くのアンジェロコート東京で新年修正会が開かれました。

全日本仏教尼僧法団笹川悦導理事長ご導師のもと、修正会法要が厳かに執り行われました。法要後、笹川理事長は、新型コロナウイルスでお亡くなりになった方々

新年修正会開かれる

へのご冥福を祈られると共に、一日も早いウイルスの収束を願われました。次に、寿ぐ新年に相応しく、十二支の初めのねずみと大黒天との関りについて語られました。また有難いことに、国連で採択されたSDGsに取り組む仏婦の姿勢にご賛同下さいました。

続いて、東伏見具子会長が「新型コロナウイルスで京都

の町は閑散となりました」と、インバウンドで環境容量を超えてしまった京都がウイルスで一変した様子を伝えられました。更に、「全日本仏教会第34期副会長を仏婦の代表として引き受けました」と、ユーモアを交えてご報告。最後に、環境問題に言及され、皆様で知恵を出し合って、地球を守ってまいりましょうと結ばれました。

加用稔子副会長が乾杯のご挨拶で新型コロナウイルスや環境問題について触れられ、乾杯のご発声をされました。

美味なお食事を頂きながら、「100万人のクラシックライブ」による演奏に耳を傾けました。「春の海」に始まり5曲が演奏され、とても優雅で和やかな午後のひと時を過ごしました。

本多端子理事長は就任後初めての修正会で抱負を語りました。仏婦は女性の力を頼りに、仏教精神に基づいて福祉活動や文化活動に取り組み、現在、新しいリーフレットを作成中であると述べ、会員の

皆様のお考えやお知恵を拝借して、更なる活動が続けていく決意を新たにしました。

大橋百合子常務理事が今年の行事予定を読み上げ、毎年恒例の自己紹介と続きました。今年は会員相互の親睦を図るために出席を抽選で決めました。

お待ちかねのお楽しみ会では、賞品が皆様に当たり場が和みました。

梨本三千代副理事長が閉会の謝辞を述べ、修正会は盛況のうちに閉会しました。

（花岡真理子）



私たちの活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

3月25日現在（順不同・敬称略）

▼賛助金にご協力の方々

大本山増上寺 眞性寺
神奈川県仏教会 妙慶院 大聖院

▼ご芳志を頂きました方々

念法眞教（公財）全日本仏教尼僧法団
静岡県仏教婦人会 東伏見具子
加用稔子 吉田真理 六條照瑞
鈴木トヨ子 末廣久美 本多端子
梨本三千代 大橋百合子 花岡真理子
海老塚和秀 海老塚り子
日比野郁皓 丸山弘子 桶屋良法
小峰みな子 御嶽由美子 篠田節子
長尾陽子 村主みや子 安井豊子
後藤陽子

▼花の種運動にご協力の方々

本多端子 岩脇孝子 松井百合子
花岡真理子 篠田節子 鈴木トヨ子
河原時子 佐々木公子 可児光永
總持寺 善照寺 後藤陽子 逸見秀子

▼写経運動にご協力の方々

【天王寺写経会】

小田文子 深沢秀行 水越澄子

1月

1日 「全佛婦」130号発行

9日 妙法院門跡訪問（京都）

21日 （公社）日本仏教保育協会新年懇親会

（東京プリンスホテル）

22日 第7回運営委員会（天王寺）・第119回文化講座

30日 念法眞教一宮良範教務総長来局（千駄ヶ谷）

・（公財）全日本仏教会新年懇親会（東京プリンスホテル）

2月

12日 新年修正会（アンジェロコート東京）

25日～27日 花の種発送作業（天王寺）

奥田智恵子 鈴木喜美 須田禮子
宮川寿美 綾部喜美江
公門照子 鳥越美奈子 田口貞枝
宮永時枝 中島和子 前田悦子
溝口満恵 高石ちどり 鈴木文子
梶川うた子 永田和子 田中きわ子
高橋嘉子 塩川房子 佐藤ちづ子
堀裕子 中島淑夫 中村千代子
中村秀子 鈴木悦子 深野富士江
古崎千枝子 田村幸子 玉上優子
溝口順子 小森谷初明 諏訪芳江
林久子 西森万季子 渡部美智子
中村幸子 山田汪子 高田恵子
春日昭子 門田久子 匿名

【新豊院写経会】

植松園子 久世守男 花田照子
太田順子 斉藤志げ乃 望月恵津代
石切山光子 大村照子 大久保民江
田中勝子 加藤正子 小笠原房子
小笠原明美 田村成子 望月正子
宇田川美知子 斉藤協子 植松榮子
清水確子 蓑恵美子 長谷川園子

太田房子 曾我光代 斉藤マサ子
太田悦子 望月道子 大石孝子
望月則子 海野光子 出雲君美子
篠田節子

【宝光院扱い】

大橋百合子 花岡真理子
海老塚り子 濱野富貴子
田中美恵子 猪瀬三枝子 柝澤元子
大橋聡衣 平野多摩子

【事務局扱い】

佐々木公子 遠賀令子 末廣綾
中村幸子 村上和之 塚田成子
山口美和 横山俊子 海老名初江

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

丸山弘子 無憂樹の会

▼タオル運動にご協力の方々

岩脇孝子 武林隆 末廣綾

▼誌代にご協力の方々

河原時子 篠田節子

今後の予定



6月9日（火）

第8回総会
会場：
本山東本願寺



9月9日（水）

第121回
文化講座
講師：江田智昭師
会場：天王寺

10月2・3日
（金・土）

第45回
全日本仏教徒会議
島根大会
会場：島根県民会館

10月28日
（水）

第67回全日本仏教
婦人連盟大会
会場：リーガロイヤル
ホテル東京

12月7日
（月）

第32回
成道会の集い
会場：
有楽町朝日ホール

☎ 問合せは当連盟事務局まで ☎ 03-5772-0677

TOPIC 01

写経納経報告

令和元年度皆様からお預かりいたしましたお写経は（公財）国際仏教興隆協会様に委託し、2月12日インド日本寺本堂にて現地駐在のご住職様によって法要後に境内にあります宝篋印塔に納めていただきました。ありがとうございました。

今年度も引き続き写経運動にご賛同くださいますようお願い申し上げます。



TOPIC 02

3月9日

「第120回文化講座 京都仏教セミナー」 延期について～

この度の新型コロナウイルス感染拡大及び政府発表の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」をうけ、3月9日（月）の「京都仏教セミナー」を延期する運びとなりました。

大変心苦しく存じますが、皆様方の健康と安全を第一に考え、延期に至りました。諸般の事情をお察し頂きまして、何卒ご了承の程よろしくお願い申し上げます。疫病退散を祈念しつつ、皆様どうぞご自愛下さいませ。

尚、延期後の日程につきましては未定ですが、決まりましたら改めてご連絡申し上げます。

第119回文化講座

女性と子どもが 地球を救う

1月22日

1月22日、講師に善光寺白蓮坊住職であり画家の若麻績敏隆師をお迎えし、「女性と子どもが地球を救う」というテーマで、第119回文化講座を谷中天王寺にて開催いたしました。

なぜ、今、女性と子どもなのか？を画家としての視点を交えてお話いただきました。

5・6歳児の女子が描く自由画では、平和で花に溢れ、友達と仲良く遊ぶ、まるで極楽のような世界が、人種、国を問わず描かれ、男子の自由画では、ロケットやロボット、車や電車、飛行機などが好んで描かれ、武器など戦争を想像させるようなモチーフも多いのだそうです。

成長してからも、女性は専ら楽園的な世界観の絵を描くとのこと。今現在のあらゆる問題、貧困や飢餓、武力紛争、環境汚染などに向き合っていくのには男性的な権力志向や経済成長神話ではなく、女性のもつ平等と愛を基本とする平和で共生的な世界観とエゴのないピュアな子供の感性を重んじていくべきだと語られました。



EXPLANATION

「網」に例える「縁起」の世界

～因陀羅網（インドラ網）～

釈尊が説いた「縁起」は、いかなる存在も他の存在と無関係に独立して存在することはできないという教えです。

皆様、網を想像して下さい。上下左右の糸を共有して、その繋がりが網を構成しています。一つの糸だけでは網になりません。つまり、網の目はそれぞれ他の網の目が成り立つために役立っています。ですから、網が破損すれば、四方八方に負の影響を与えます。

この世が関係性で成り立っていることを仏教の華嚴思想では因陀羅網（インドラ網）で表しました。

華嚴経の所説によると、世界の中心に須弥山がそびえ、頂上にある忉利天の主が帝釈天です。その帝釈天の宮殿に掛かっている宝の網を因陀羅網（インドラ網）といいます。網の目の一つ一つに宝珠があり、一切の宝珠が相互に他の一切の宝珠を映し出しています。それは、自他が相互に、無尽に、影響を重ね合いながら存立するこの世の姿といわれます。

因陀羅網に注目しているのは仏教者だけではありません。西洋からも熱い視線が注がれています。

西洋の自然観では、人間は自然の生態系に連なることなく、その連鎖の外側で自然を支配するという考えですが、その考えに異議を唱えるグループが現れました。ディープエコロジストたちです。彼らは、すべての生命存在は人間と同等の価値を持つと考え、人間と自然は一つであるという認識を持ちます。ディープエコロジストの米国の詩人であるゲーリー・スナイダー（Gary Snyder）は、仏教とディープエコロジーは全ての存在の相互依存性を認めるという点で、共通の世界観を持ち、因陀羅網はディープエコロジーの世界を見事に視覚化していると述べています。

縁起する世界では、人間も森羅万象も因陀羅網の宝珠として関わり合っています。私たち各自がその網の一つを担っていることを自覚したいものです。

(丸山弘子)

「ひと粒の種」
リーフレットを
新しく
いたしました！

Renewal



毎年みなさまにお配りしている花の種運動「ひと粒の種」リーフレットを今回リニューアルいたしました。「環境問題」というと大仰ですが、身近なところから「子供たちの未来のために」少しずつでもなにか私たちに出来ることはないかと考えております。

前は「水」がテーマでしたが今回は「海洋プラスチック」です。当連盟の機関誌である「全佛婦」の環境シリーズで海洋プラスチック問題について寄稿していただいた海洋生物学者であり僧侶でもある窪川香薫師にご協力をしていただきました。環境問題と仏教の教えが密接に結びついていることがお分かりいただけると思います。